

校長室だより

☆教育目標☆

自ら考え判断し、進んで行動できる富中生
＜生活心得＞ 時を守り 場を清め 礼を正す
令和元年10月11日発行 No.12
富岡市立富岡中学校 校長 中村 喜雄

☆☆読書は心の糧・・・☆☆

“食物は体の糧、読書は心の糧” この言葉は、古くから伝えられている西洋の名言のひとつですが、今まさに、灯火親しむ候、読書の秋です。この時期には、どの学校でも読書週間、読書旬間として子どもたちの読書に親しむ様々な取組を行っています。中学生にとっては、毎日の学習や部活動、習い事や塾など、忙しい日々を送っている人が多いと思いますが、少しでも本に親しみ、たくさん本を読んで楽しい世界を広げてほしいと願います。

それでは、私の考える読書の意義やよさについて少し述べてみます。

○一日三度の食事は体を健康に保ち成長するための栄養で、心と頭の栄養となるのが読書である。一日の四度目の食事として、短い時間でも本ごはんの時間を毎日とることが大切である。

○読書のよさは、頭の中のスクリーンに読んでいる場面などの様子を映し出して、心でそのことを見たり、いろいろと想像することができる。

○テレビなどと違い、何度でも立ち止まったり、前に戻ったりするなど繰り返しができ、自分に合ったスピードで付き合える。

○あることをより深く知りたい時、たくさんの情報を自分の力で探し出せる。

○いろいろなことを教えてくれるだけでなく、相談にのってくれたり、励まして勇気づけてくれるもので、人間として広い視野で物事をみることができるようになる。

また、読書をすることの利点として、

- ①想像力・空想力・思考力が付く。
- ②性格やものの見方などに良い影響を与える。
- ③生き方・人生の意義などを考えることができる。
- ④人間性が豊かになる。
- ⑤文字や漢字に強くなり、語彙力が付く。

などが考えられます。

いずれにしても、読書は子どもたちにとって心の成長につながる大切なものです。現在、テレビやコンピュータなどの情報メディア発達によって、子どもたちが楽しみを味わう手段が多様化しています。また、先ほど述べましたように、子どもたちが忙しい日々を過ごしていることが原因で、読書離れを引き起こしているのも事実です。しかし、子どもたちは、本来読書好きです。その環境づくりを考えることは、我々大人の役目だと考えます。



